

16. キキョウ（キキョウ科キキョウ属）

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A. DC.

2014年9月

日当たりのよい山野の草地やため池堤体に生育する美しい多年草で、太い根茎は地中深く入ります。高さ 40～100 cm で、葉は互生または対生あるいは輪生し、狭卵形で長さ 4～7 cm、幅 1.5～3 cm で縁に鋭鋸歯があります。表面は無毛で、裏面は短毛があつて粉白色を帯びます。花は 8～9 月に茎の上部に数個つけ、径 4～5 cm で青紫色を呈し、ときに淡紫色や白花もあります。土手などでは草刈などの維持管理が行われているところで、それらの有無がキキョウの生育に大きく影響することがわかり、草刈がされず高茎雑草がはびこるようになると出現しないようになります。分布は日本全土、朝鮮、中国北部、ウスリーで、兵庫県は比較的各地にあるようで、姫路市やその周辺でも丘陵地やため池土手に見ることができます。栄養分の乏しい環境を好むようで、播磨地域は適した環境と思われます。しかしながら、全国的には希少でどこにも生育しているというものではありません。近畿版レッドデータブック 2001 の C ランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第 4 次レッドリストは VU ランクに位置するまれな植物です。秋の七草のひとつで、古くから人々に愛された身近な植物であったようで、多くの市で市花に指定したり、軍師黒田官兵衛もキキョウ色を好んだといわれています。観賞用に栽培され、最近鉢植え用に矮性で大輪の花やピンク花、白色あるいは二重咲きなど、野生個体から選別されたいろいろな園芸種が出回っています。また、根はサポニンを多く含む薬草で、生薬名は桔梗根といい、鎮咳、去痰、鎮痛、解熱作用など漢方薬としても重要な種類になっています。



キキョウの群生状況



キキョウ